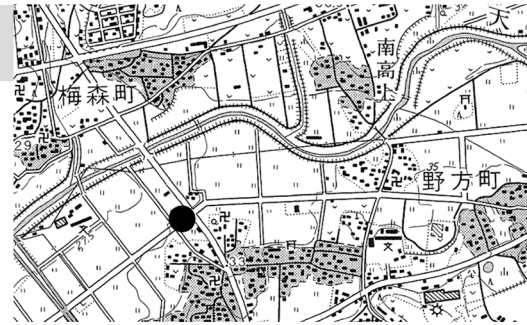


にしだめん
西田面遺跡範囲確認調査

所在地 日進市浅田町地内
調査理由 県道岩崎名古屋線建設
調査期間 平成13年4月17日～4月20日
調査面積 200 m²
担当者 赤塚次郎・皆見秀久



調査地点 (1/2.5万「平針」)

調査の経過 調査対象地内に15ヶ所の試掘坑(テストトレンチ、以下T.Tと略す)を設定し、断面観察を行った。その後、各テストトレンチの遺構の有無、遺物の出土状況を精査し、遺跡の範囲とその性格を確認した。

立地と環境 日進市の西部、天白川上流域の左岸の低地付近に所在する。周辺には猿投窯が展開し、北東には岩崎古窯支群、東には折戸古窯支群が存在する。

調査の概要 T.T-8、T.T-14、T.T-15については、耕作土下に明黄褐色シルト層が堆積し、T.T-8については幅約1.8mの溝を検出した。溝下層より須恵器、灰釉陶器が出土した。T.T-14は遺構、遺物とも確認することはできなかったが、T.T-15において灰釉陶器が出土した。T.T-16は、地表面より約95cm下に包含層とみられる暗オリーブ褐色シルト層が15～20cm堆積していた。この土層から須恵器、灰釉陶器が出土し、幅2.5mの溝を検出した。溝の断面はU字形で65cmの深さがあり、埋土は3層に分かれていた。溝からは須恵器、灰釉陶器が出土しており、特に最下層(暗灰黄色中粒砂)からの出土が多かった。調査対象地東側については須恵器、灰釉陶器が出土してT.T-8とT.T-16では溝がそれぞれ確認できたことから平安時代を中心とする集落跡を想定することができる。

その他の調査対象地については、全体的に10～20cmの耕作土下に40～60cmの明黄褐色シルト層が堆積し、その下はすべて礫層となっていた。シルト層直上にて検出を行ったが遺構、遺物とも確認できなかった。ただし、T.T-1地点においては中世陶器及び須恵器片2点が出土し、焼土も検出された。(皆見秀久)



西田面遺跡範囲確認調査地点 (1:4000)